

テーマ：「障害者がもっと活躍できるように」
障害のある都内の方々が日々の生活や勤務・学業等への従事にあたり抱える課題を解消し、
より活躍できるためのアイデア・アプリ



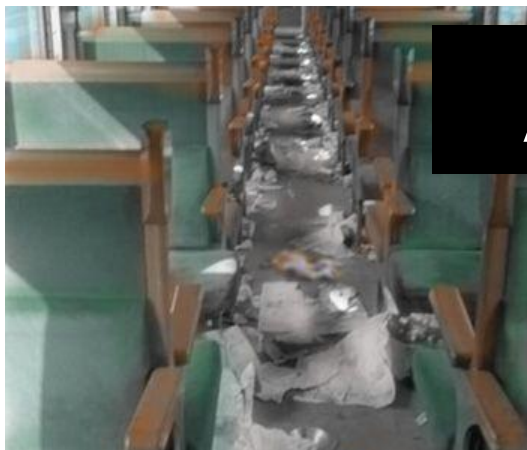
ソーシャルアクションサービス
May ii (メイアイ)

DNP 大日本印刷株式会社

© 2020 Dai Nippon Printing Co., Ltd. All rights reserved.

電車、スタジアム、街中といたる所でごみが散乱

A.1964年以前の日本



個人の公共マナー





行きたい場所への移動を諦めた経験がある
(ベビーカー・車いす使用、国内観光客など)

1年間、外出を伴う余暇活動をしていない
(肢体不自由・視覚障がい)

82.3%

2018年 DNP調べ

50.8%

文部科学省調べ

移動時のバリアが原因となり
「行けるかどうか不安…」 「迷惑をかけたらどうしよう…」 という気持ちから

行ってみたい < 移動したくない

≒移動を諦めている

「見知らぬ人への手助け」世界ランキング

138位 / 140位中

※英チャリティー機関によるランキング
World Giving Index (世界人助け指数)

新宿駅周辺で困っている人に気づいた
(ベビーカー・車いす使用者、ヘルプマーク、聴覚障がい平均)

5%のみ

※東京都とのソフトバリアフリー実証実験 観察調査より



手助けしたい気持ちはあって、**そもそも「気づけていない…」**

「本当に困っているかわからない」「声をかけて断られるのが嫌」「サポート方法がわからない」

気持ちはあっても行動に移せてない

電車や施設、街中など身近で困っている人がたくさん

他者へのユニバーサルマナー

“自分とは違う誰かの視点に立ち行動すること”は、特別な知識ではなく「こころづかい」の1つ。
多様な方々へ向き合うためのマインドとアクション。 ※日本ユニバーサルマナー協会から引用。

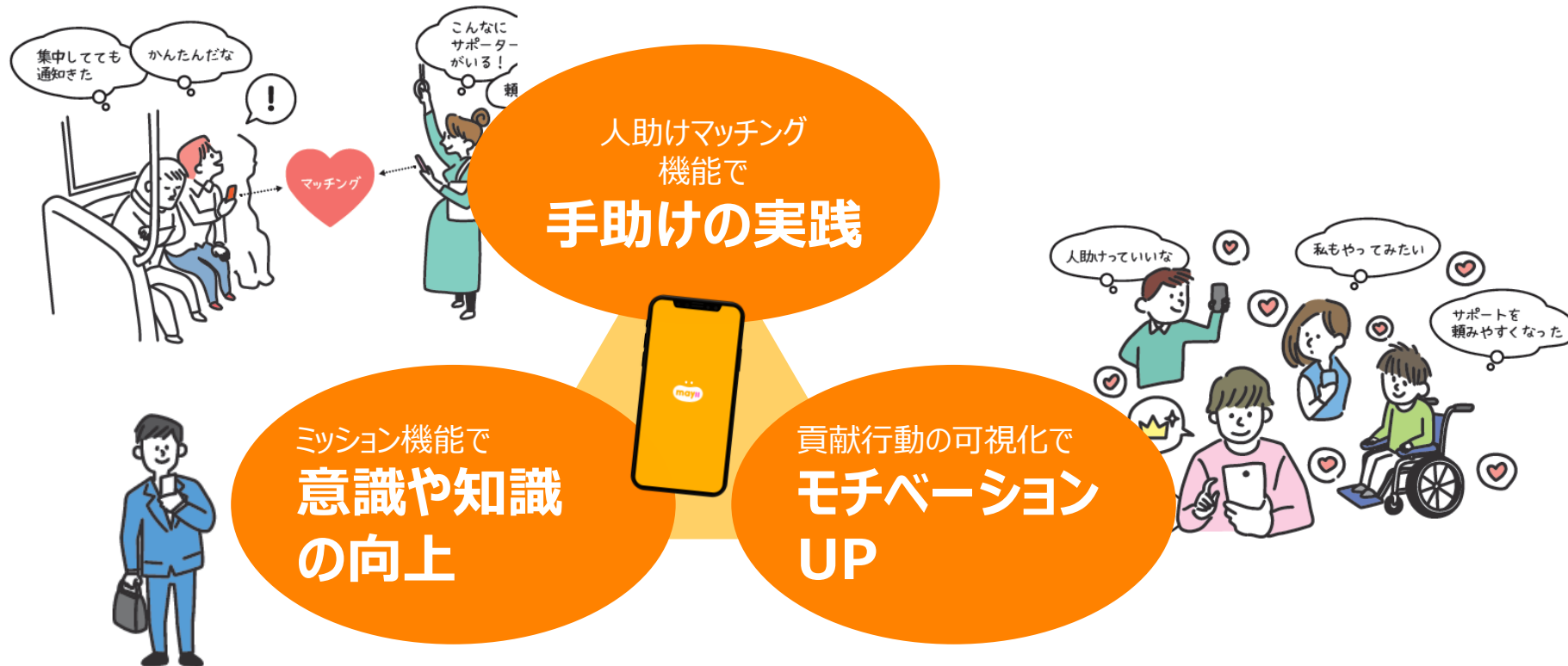


スマホがつなぐ、助けあいアプリ

ほんのちょっとした困りごとで他人に助けを求められない。
困ってるのかな？と思っても声をかける勇気がない。

道に迷ったとき、大きな荷物で困ったとき、助けてもらえたらホントにうれしい。
旅行者や訪日外国人、高齢者や障がいのある人ならもっとそう思ってる。

お互い気軽に助けたり、助けてもらったりできるベンリなアプリ。



社会・街への貢献行動を促進・可視化できる

ポイント1

周囲のサポーターに依頼！
GPSでの位置情報共有で
人助けマッチング

まるで…
人間Uber

手助けが
ほしい！

周囲1kmに通知

手助け
できます

ポイント2

ユニバーサルやダイバーシ
ティ関連の学習をミッシ
ョンで。ゲーム感覚で
クリア！

ポイント3

貢献行動がポイントで見
える化。キャラ成長で
自分のステータスがUP



※音声読み上げなどのアクセシビリティ対応
※端末の言語切替で英語と韓国語対応

Vision

人の個性が多様化する社会で、
価値あるコミュニケーションで人々をつなぎ、
誰もがいきいきと活躍できる社会の実現
社会全体の活動総量の増加



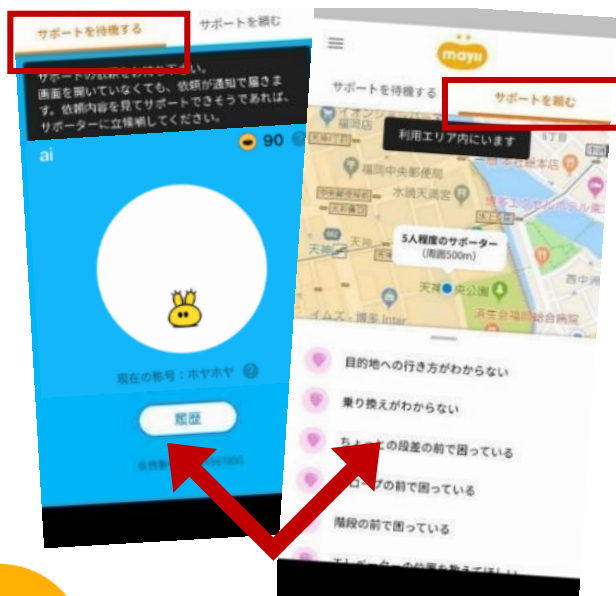
Mission

気軽に May I help you? を言える日本人を増やす!

健全者・障がい者間の心のバリアが取れた日本人を増やす
広義のグローバルマインドの醸成
(多様なヒトとのコミュニケーション力/失敗を恐れず自分の意思を行動に移す力)

簡単切り替え

タブ切替で「サポーター」と「サポート依頼」どちらの立場にもなれる
障がい者も助けられる一方ではなく、自分のスキルを活かします。



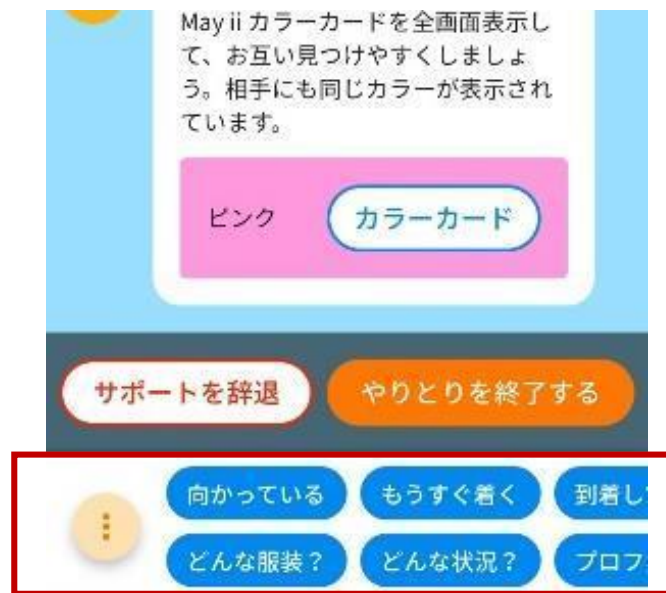
相手を探しやすい

「位置」と服や持ち物等「見た目の特徴」の共有を簡単にし、相手を探しやすく



アクセシビリティ

アイコンやワンタップを中心としたUIデザイン。発達障がいや肢体不自由の方含め、誰にとっても使いやすく



“福祉”の領域を越えて、“コミュニケーション”をイメージしたデザインに

利用時間を日中に制限 / 個人情報を除いた安心感を得られる最低限の情報共有/
対面時の緊急連絡先発信/相互評価機能(運営への通報)でリスクやセキュリティ対策も

リスク
など
対策

<登録・利用状況 2020年2月7日時点>

2万5500件ダウンロード

7550人登録

マッチング機能利用エリアのみ

3万7000人
サポート待機

778件
サポート依頼

331件 = 約42%
手助けマッチング

<アプリを通じた効果>

お出かけの
ハードルが下がった

56%



手助けの
ハードルが下がった

81%



周囲の“困っている人・街のバリア”
に気づくようになった

67%



交流会や調査を通して(インクルーシブデザイン)、ユーザーの声を聞きながらアプリを改善しています

これがあれば、**移動のためらいが
かなりなくなる！**

人生が変わるレベルで嬉しかった！
(40代男性車いすユーザー)



このアプリを通して言われた「**ありがとう**」は
レインボーなイメージ。普段介護の仕事をして

いるが、いつも言われるありがとうは“モノクロ”。
普段よりも嬉しかった。(40代女性サポーター・介護職)



健常者に無視されたことがトラウマとなり、声をかけることに憶
病になっていたが、このアプリがあれば**健常者への
恐怖心・誤解がなくなる！**

(20代女性車いすユーザー)



手助けは難しい・時間がかかるもので自分には関係の薄いも
のだと。**短時間でも簡単にできること
がある**ことに気付けた (30代男性サポーター)



バスでは絶対に出かけなかった！けど、アプリで助けてもらった
経験がきっかけで、**もし困ったらアプリで！**

とお守りになって、バスで外出できるように！

(20代女性電動車いすユーザー)

大学生に目的地まで誘導してもらっていたら、
大学の後輩だと知った。
今の仕事の話をしたら、後日進路相談をすることに。

地元の人との交流につながった

(40代全盲男性)



ダイバーシティの先のインクルーシブな社会へ